

会 議 要 録

会 議 名		平成 29 年度第 2 回 小平市青少年問題協議会
日 時		平成 29 年 6 月 28 日（水）午後 1 時 30 分～午後 3 時 20 分
場 所		小平市福祉会館 3 階 第 2 集会室
出席者 等	委 員	1 2 名（欠席者 5 名）
	事務局	子ども家庭部長、家庭支援担当課長、生活支援課長、地域学習支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		0 名
会議 内容	1 開 会 2 議 事 (1) 小平市子ども・若者計画の骨子案（構成案）について (2) 統計・調査から見える子ども・若者の現状について 3 情報交換・意見交換 4 その他 5 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 資料 1 「小平市子ども・若者計画」構成（案） 資料 2 子ども・若者を取り巻く現状 参考資料 計画体系比較表 青少年指導者用 人権尊重の社会 小平市の教育に関するアンケート調査報告書（小・中学生の調査結果抜粋）	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

1 議事

(1) 小平市子ども・若者計画の骨子案（構成案）について

委 員 施策の具体的な担い手は想定されているか。

事務局 市が中心となり、関係課とともに進める。他の関係機関、民間団体等の独自の取組に対し、市から側面的な支援もあり得る。国の大綱でも担い手は大きな項目として挙がっており、市として何をすべきかを検討していきたい。

委 員 基本目標（1）に「すべての子ども・若者」とあるが、「すべて」とはどのような概念か。また、「すべて」の概念を明示しないのか。「すべて」で良いのかという問題意識を持っている。

会 長 基本目標（3）もすべての子ども・若者が対象となるか。

事務局 基本目標（2）のように虐待や貧困というような特別な問題を抱えた子ども・若者に限られるものではなく、基本目標（1）（3）はすべての子ども・若者が対象である。

委 員 市の中で「すべての子ども・若者」ということについて共通認識があれば

良いが、例えば外国籍の子どもが入るかなど対応が違うことがないようにしたい。

事務局 外国籍の子どもも含まれる。なお、国の大綱では、特に配慮が必要な子ども・若者としても挙げられている。

会 長 「すべて」とは市内居住、通学、通勤の子ども・若者ということか。市立小・中学校でもわずかだが市外から通学している子どもがいる。

事務局 原則として市内在住の子どもである。計画の主旨・目的は、小平に住む子どもの自立を促していくことである。

委 員 「貧困」の問題については、生活保護は現在地主義であり、必ずしも住民票とイコールではない。あまり厳密に対象を決めすぎても良くないと思う。

(2) 統計・調査から見える子ども・若者の現状について

会 長 市として市の現状に関する認識はどのようなものか。

事務局 現状認識として大きく3点捉えている。1点目は、子ども・若者意識・実態調査結果からは、市に大きな、特徴的な課題は浮かび上がらなかったこと。2点目は、青少年育成プランの策定に示されるように早くから青少年施策を積極的に推進してきたこと。3点目は、昨今の子ども・若者の成長・自立を阻害する要因としてひきこもりや貧困などの様々な問題が複雑化・深刻化している状況は、小平市においても例外ではないと認識しており、小平市の良い面をさらに伸ばしながら、子ども・若者の健全育成に今後も力を注ぐ必要がある。

委 員 資料2 22ページ、相談窓口の「教育相談室」「生活相談支援センター」はどこにあるか。

事務局 萩山駅近くの複合施設小平元気村おがわ東の3階に「教育相談室」があり、教育に関する様々な相談を受け付けている。不登校児が通えるあゆみ教室もある。「生活相談支援センター」は福祉会館内にあり、社会福祉協議会に委託して開設した。こちらはすべての家庭の相談に応じている。なお、「子ども家庭支援センター」は小平元気村おがわ東の2階にある。

委 員 資料2 1ページ、人口推計で子ども・若者の割合が増加するとしている根拠は何か。21ページ、防災・防犯緊急情報メールマガジンの件数が少ない印象を受ける。11件にカウントされているのはどのようなものか。また、「子ども110番のいえ」で実際に助かった事例等はどのようなものがあるか。

事務局 子ども・若者の割合については、50年後の推計であり要因の特定は難しい。国の人口推計では2065年まで減少し続ける予測となっている。小平市では、現在も子どもが増えており、全国的な傾向とは少し異なる状況にある。防災・防犯緊急情報メールマガジンは、警察からいただいた情報を配信している。平成28年5月から開始した事業であるため、件数の推移は分析できない。学校で適時配信している情報と一致するものではない。

事務局 「子ども110番の家」について、平成26年度時点まででは実際に子どもが駆け込んで助かったというような事例は報告されていないが、予防・抑止効

果としての意義があると地域からは伺っている。

委 員 市が考える小平の良い点とはどのようなことか。地域のつながり、自治会加入率、情報発信の難しさを感じている。

事務局 この場では、地域で活動されている皆さんが感じる小平の良い点・足りない点、強み・弱みを聞かせていただきたい。

委 員 資料2 24ページ 青少年施策に求めることで最も多い「お金の心配をすることなく学べるように支援する」について、お金がない家庭は非常に苦勞している。放課後子ども教室などもあるが、指導者の養成など様々な手立てをお願いしたい。「自由に過ごす場を増やす」について、青少年センターに代わるものが必要であると思う。中・高校生から防音室が欲しいという声が多く、公共施設の検討をする機会があれば検討をお願いしたい。青少年センター廃止後のティーンズ相談室の雰囲気が高く、他の場所にも設置してほしい。青少年対活動によって子どもたちに大きな効果が出ていると感じている。

委 員 学校で行っていたSWOT分析のように、市の優れているところ、強みを活用して、子どもが健全に育つまちづくりに取り組むといいと思う。近隣市の剣道教室に携わっているが、市内でもスポーツや文化的な様々な活動が行われており、非常にすばらしい指導者が指導しているので、そのような活動に従事して頑張っている人を活用していくことが必要だと思う。

委 員 以前と比べると小平市内では非行が減っていると感じる。一方で、家庭に起因する課題を抱えている子どもが増えている。「今、何に困っているか」という質問をすると問題・現状が見えてくるのではないかな。

委 員 調査結果で、どのような活動が行われているか分からないから地域活動に参加していない人が多いことや、悩みがあると回答した人に対しては、相談窓口などの広報が必要だと思うが、どのように広報活動をしているのか。

事務局 相談先については、子育てガイドを作成、配付している。これは主に保護者の相談先を周知するものだが、子ども自身が安心して自分の悩みを相談できる場として、今年3月から「ティーンズ相談室」を開設した。手のひらサイズのカードを作成、中学生に配布し、学校の先生、スクールソーシャルワーカーにも声掛けをしていただくなど周知している。地域活動の広報については、市報やホームページなどで広報しているが、実際にそこから情報を得るかというとな難しいと思う。市立小・中学校で配付してもらうチラシからが伝わりやすいと思う。調査結果にある参加しない理由を参考に、各課で工夫をしていきたい。

委 員 子育てガイドは母子手帳配付時に配付しているのか。

事務局 母子手帳配付時のほか、市の窓口や医師会に協力していただき小児科などにも置いている。乳幼児の保護者が手にとれる環境にはあると思う。

委 員 子どもの貧困、非行の問題は大きい。ふるさとづくりを含め、隣近所の付き合いやコミュニティ、つながりづくりなど小さな努力が必要だと思う。きれいなまちづくりも重要であり、それらが小平市の良さにつながる。

委 員 市の良さや課題などについては、議題を絞って議論できるといい。

- 委員 学校支援コーディネーターは、学校で保護者へのアドバイスや地域のイベントの情報発信を行っている。近くに集まれる場所がなく、子どもたちから児童館が欲しいという声も聞く。
- 委員 青少年センターを利用していたのは市外の子どもが多かったが、近隣市と施設利用で広域連携ができれば良いと思う。
- 委員 高齢者の居場所は多いが、子どもも受け入れができれば良いと思う。どこでも話を聞いてくれる場、遊びに来ていてふとしたきっかけで子どもがポロッと本音を言える場があると良いと思う。子育て中の親の中には出産して初めて子どもと接したという人もいる。相談の場所というより集まる場所が欲しい。
- 委員 学校内は落ち着いて来ているが、家庭に課題のある子が多くなっていると感じる。家庭をどう見守るかが大切だと思う。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、相談窓口の設置が進んでいるが、不登校になると学校の支援が届きにくくなり、手立てがなくなる。地域と高校とのつながりが薄いのが現状である。子ども家庭支援センター、児童相談所、近隣自治体とのつながりも必要だと思う。
- 委員 資料2 24ページ、必要な取組に関して、困っていることに認識を持っていない子もいる。ネグレクト家庭など虐待を受けている子どもにとっては、散らかった室内や親から暴力を振るわれることが日常になっているとそれが当たり前で困っている状態と感じていない。そのような子どもたちと話をしていくうちに、自分の状況が普通ではない、困ったことなのだと自覚していく。このようなことを掘り起こしていくことが重要だと思うし、掘り起こすために動く人を育てていくことが必要だと思う。また、発達障害など人間関係を作る難しさを抱えた人や、ゲームなどの影響もあって人間関係が築けない子どもがいる。基礎的な生活をする力を持たないまま成長してしまうと自立が難しくなってしまうと思う。

2 情報交換・意見交換

時間の都合により省略